

古今日本新解读

编委会主任
副主任
主编

柯茂盛
张志银
武文军
吴申陆
梁亚翔
杨增玉



兰州大学出版社

目 录

序 言	(1)
第一章 美丽岛国	(1)
一、列岛出世	(2)
二、自然景观	(4)
三、人文遗产	(11)
第二章 皇国史要	(21)
一、日本人的始祖	(22)
二、绳纹文化时代	(24)
三、弥生文化时代	(26)
四、邪马台国时代	(28)
五、大和国统一时期	(30)
六、大化改革时期	(32)
七、奈良平安时代	(35)
八、镰仓与室町幕府时期	(37)
九、日本的重新统一时期	(39)
十、明治维新时期	(41)
十一、军国主义形成时期	(45)
第三章 大和文化	(47)
一、日本的文化起源	(48)
二、日本语言文字的形成	(50)

三、汉文化的和化	(54)
四、洋文化的本土化	(58)
五、神道与佛教信仰	(63)
六、日本的道技艺	(66)
七、日本的民俗文化	(69)
八、日本文化的特征	(71)
第四章 四岛环顾	(75)
一、东京都	(76)
二、京都府	(78)
三、大阪府	(79)
四、北海道地方	(81)
五、东北地方	(83)
六、关东地方	(84)
七、中部地方	(87)
八、近畿地方	(90)
九、中国地方	(92)
十、四国地方	(93)
十一、九州地方	(94)
第五章 都市风貌	(97)
一、主要都市	(98)
二、现代化的基础设施	(127)
三、完善的保障服务体系	(134)
第六章 国民意识	(141)
一、民族优越意识	(142)
二、神道意识	(148)
三、武士道意识	(154)
四、军国意识	(159)

五、国民意识的蜕变	(166)
第七章 二战元凶	(171)
一、军国主义传统	(172)
二、二战的亚洲策源地	(182)
三、发动全面侵华战争	(184)
四、肇起太平洋战争	(194)
五、日本法西斯的覆灭和二战的结束	(199)
六、怯懦的反思	(208)
第八章 经济二强	(215)
一、近代日本资本主义经济的发展	(216)
二、战后改革与经济恢复	(217)
三、高速增长与第二经济强国	(221)
四、日本经济成长的经验	(223)
第九章 衰退透视	(231)
一、高速增长与泡沫经济	(232)
二、衰退期的经济波动	(237)
三、衰退成因	(243)
四、日本经济复苏之路	(255)
第十章 企业经略	(259)
一、日本企业成长略述	(260)
二、日本现代企业制度	(265)
三、日本企业的管理	(272)
四、日本的企业理念与企业精神	(279)
五、经济衰退与企业命运	(283)
第十一章 岛国“三农”	(287)
一、历史上的农业国	(288)
二、明治后的农业资本主义	(291)

三、农业现代化及其特点	(294)
四、日本农业的发展经验	(299)
第十二章 国家政体	(307)
一、天皇制	(308)
二、日本国会	(311)
三、日本内阁	(314)
四、宪法与司法制度	(316)
五、日本的政党	(317)
六、日本的利益集团	(319)
七、政治竞选	(322)
八、政治标记	(323)
第十三章 国安体系	(325)
一、二战前的军国主义体系	(326)
二、战后的国家安全体系	(328)
三、日本现行的国家安全体系	(333)
四、日本的政治大国动向	(340)
第十四章 教育新篇	(345)
一、日本近代教育的发展历程	(346)
二、二战后的现代教育阶段	(358)
三、现行教育体制	(366)
四、日本教育的特点	(377)
五、日本教育的缺陷	(380)
第十五章 中日关系	(385)
一、古代日本与中国	(386)
二、中世纪时的中日关系	(388)
三、近代中日关系	(391)
四、中日战争时期	(400)

五、二战后前期的中日关系	(405)
六、中日邦交正常化	(410)
七、中日邦交正常化三十年	(416)
第十六章 国际关系	(423)
一、日本与美国的关系	(424)
二、日本与苏联、俄罗斯的关系	(437)
三、日本与东南亚的关系	(446)
后 记	(455)

目 录

序 文	(1)
第一章 美しい島国	(1)
一、列島出世	(2)
二、自然風景	(4)
三、人文遺産	(11)
第二章 日本歴史概要	(21)
一、日本人の先祖	(22)
二、縄文文化時代	(24)
三、弥生文化時代	(26)
四、邪馬台国時代	(28)
五、大和国統一時期	(30)
六、大化革新時期	(32)
七、奈良・平安時代	(35)
八、鎌倉と室町幕府時期	(37)
九、再統一時期	(39)
十、明治維新時期	(41)
十一、軍国主義形成時期	(45)
第三章 大和文化	(47)
一、日本文化の起源	(48)
二、日本語文字の形成	(50)
三、中国文化の日本化	(54)

四、西洋文化の本土化	(58)
五、神道と仏教信仰	(63)
六、日本の道技芸	(66)
七、日本の民俗文化	(69)
八、日本文化の特徴	(71)
第四章 四島概要	(75)
一、東京都	(76)
二、京都府	(78)
三、大阪府	(79)
四、北海道	(81)
五、東北地方	(83)
六、関東地方	(84)
七、中部地方	(87)
八、近畿地方	(90)
九、本州地方	(92)
十、四国地方	(93)
十一、九州地方	(94)
第五章 都市風格	(97)
一、主要都市	(98)
二、現代化の基盤施設	(127)
三、整備された保障サービス体系	(134)
第六章 国民意識	(141)
一、民族優越意識	(142)
二、神道意識	(148)
三、武士道意識	(154)
四、軍国意識	(159)
五、国民意識の変質	(166)

第七章 第二次世界大戦の元凶 ……………	(171)
一、軍國主義伝統 ……………	(172)
二、第二次世界大戦アジア震源地 ……	(182)
三、全面的な侵華戦争を起こす…………	(184)
四、太平洋戦争 ……………	(194)
五、日本ファシストの全滅と第二次世界大戦 の終結 ……………	(199)
六、怯懦の反省 ……………	(208)
第八章 経済二強 ……………	(215)
一、近代日本資本主義経済の発展 ……	(216)
二、戦後の革新と経済回復 ……………	(217)
三、高度成長と第二経済強国 ……………	(221)
四、日本経済成長の…………	(223)
第九章 衰退洞察 ……………	(231)
一、高度成長とバブル…………	(232)
二、衰退期の経済変動 ……………	(237)
三、衰退の原因 ……………	(243)
四、日本経済の生き返る道 ……………	(255)
第十章 企業経略 ……………	(259)
一、日本企業成長略述 ……………	(260)
二、日本現代企業制度 ……………	(265)
三、日本企業の企業管理 ……………	(272)
四、日本の企業理念と企業精神 ……	(279)
五、経済衰退と企業の命運 ……………	(283)
第十一章 島国“三農” ……………	(287)
一、歴史上の農業国 ……………	(288)
二、明治以後の農業資本主義 ……	(291)

三、農業現代化及び特徴 …………… (294)

四、日本農業発展の経験…………… (299)

第十二章 国家政体 …………… (307)

一、天皇制 …………… (308)

二、日本の国会 …………… (311)

三、日本の内閣 …………… (314)

四、憲法と司法制度 …………… (316)

五、日本の政党 …………… (317)

六、日本の利益集団 …………… (319)

七、政治選挙…………… (322)

八、政治標識 …………… (323)

第十三章 国家安全体系 …………… (325)

一、第二次世界大戦前の軍国主義体系
…………… (326)

二、戦後の国家安全体系 …………… (328)

三、現行の国家安全体系 …………… (333)

四、日本の政治大国の動向 …………… (340)

第十四章 教育の新しいページ…………… (345)

一、日本近代教育発展の過程 …………… (346)

二、戦後から現在における現代教育段階
…………… (358)

三、現行の教育体制 …………… (366)

四、日本教育の特徴 …………… (377)

五、日本教育の欠陥…………… (380)

第十五章 日中関係…………… (385)

一、古代日本と中国 …………… (386)

二、中世の日中関係…………… (388)

三、近代日中関係	(391)
四、日中戦争時期	(400)
五、第二次世界大戦後前期の日中関係	(405)
六、日中国交正常化	(410)
七、日中国交正常化三十年	(416)
第十六章 国際関係	(423)
一、日本とアメリカ	(424)
二、日本とソビエト連邦・ロシア	(437)
三、日本と東南アジア	(446)
後書き	(455)

序 言

日本是亚洲大陆东北部的一个美丽的岛国,因把樱花命名为国花,所以人们又称日本为“樱花之国”。由于20世纪70年代以来,日本出现了经济的腾飞,创造出了巨大的经济奇迹,西方人说日本是“亚洲的凤凰”。日本国土面积仅占世界陆地面积的0.27%,但2000年的国内生产总值却达到了40042亿美元,成为世界名副其实的第二大经济强国。而其间由于70年代以后的高速发展,房地产和股票业的扩张,金融信贷的膨胀引发了泡沫经济的破裂,日本经济出现了周期性的衰退,曾连续5年都出现了负增长。然而,日本政府又采取了一系列挽救经济的产业政策和调控措施,目前,日本经济又出现了复苏的迹象。

日本是中国一衣带水的近邻,远在中国古代三国时期,日本国王就派使者来访中国。此后,中国的文化不断传入日本,中国的儒学和佛学不断在日本生根。中国的农业技术和文字传入之后,对日本经济文化的发展起到了促进作用。在将近一千年的历史时期内,日本出现了“汉风化”的趋势,日本的文化和中国的文化建立了不解之缘。日本在明治维新之后走上了军国主义道路,日本政府制定了侵略亚洲和太平洋

地区的大陆政策,这个大陆政策的实施步骤是:“要吞并世界必先吞并中国,要吞并中国必先吞并满洲。”从19世纪末期开始,日本就策划了一系列侵略中国的活动,直到1937年发动了全面的侵华战争。二战之后,由于美国的操纵,日本采取了敌视中国的政策,并且和台湾蒋介石集团相勾结,开展了一系列排华、反华活动。

1972年,中国在联合国的合法席位得到了恢复,日本新政府对中国采取了友好态度,从而使中日邦交正常化。日本田中首相于同年9月25日访问中国,中日两国发表了《联合声明》,从此终止了两国关系的不正常状态。中日邦交正常化至今已30余年,中日两国政府间的交往和民间经济、文化、科技的交流日益频繁,两国在经济、文化、技术等方面都形成了睦邻友好合作关系。从1990年开始,中国已经成为日本的第二大贸易伙伴。到2002年,中日贸易总额达1000亿美元。目前,日本民间直接对华投资企业约有1000多家,中日两国的技术合作也有了长足的进展。中日文化交流活动人数每年达到了百万以上,日本来华旅游人员目前保持在600万左右。

中日两国以缔结友好城市为特点的友好交流发展很快,到1997年,中日结为友好城市和友好省县的已达216对,目前已经达到了400多对。兰州市是与日本缔结友好城市关系较早的城市之一,1982年,兰州市与日本秋田市结成友好城市,1983年,又与日本八门市建立了友好交流关系。二十年来,兰州与这两个城市之间进行了各式各样的经济、文化、科技、卫生、体育的广泛交流,政府间的合作交往也日益密切。许多日本友人为兰州市的自来水工程、煤制气工程和医疗卫生事业做出了贡献。兰州市与秋田市、八门市及其他城市之间的友谊成果日益丰硕,兰州与日本友好城市的交往在兰州

对外关系史上谱写了重要的篇章。

为了提高甘肃和兰州对外开放的水平，促进与日本经济、文化、科技、教育等领域的交流，以适应经济全球化和中国入世的形势，兰州市外办与兰州市社科院组织有关工作人员和理论工作者编写了“兰州与日本经济文化交流丛书”。

丛书的第一部书为《古今日本新解读》，这部书根据国内研究日本和中日关系的重要成果，比较系统地介绍了日本的历史、教育、民族意识、文化风俗、城市风貌、田园风光，尤其着重阐述了日本走向经济强国的道路和经验，中日关系发展的历史和前景。这部书集知识性、资料性、学术性为一体，深入浅出地反映了日本的历史、经济、社会的概貌，是认识日本的一部通俗性、知识性读物。

第二部书为《玫瑰樱花遥相笑——兰州·秋田结谊二十周年纪念》，兰州与秋田结谊是改革开放以来国内最早建立的中外友好城市之一。二十年来，两市的关系经受了各种风浪的考验，两市开展经济、文化、科技、体育等方面的实际合作，结下了丰硕的友谊成果。这部书既是兰州与秋田二十年友谊发展的真实记录，又是两市继续开展合作交流的重要参考读物。

第三部书为《重洋不隔两市情——兰州·八户友好关系二十周年纪念》，这部书着重介绍了兰州市与日本八户市结为友好关系二十年间的经济、文化交流活动，介绍了两城市之间政府往来和民间交流的主要成果，总结了两市友好合作的重要经验，展望了两市进一步发展经济、文化交流的前景。可以说，它是一部兰州与八户友谊历史发展的纪实性读物。

“兰州与日本经济文化交流丛书”的出版对人们了解日本，开辟日本市场，吸引日本投资具有重要的参考价值，也给

人们增强对外开放理念,迎接全球化的浪潮,提供可供参考的重要资料和经验。愿这套丛书能同更多的读者见面。

杨成斌

2003年12月2日

序 文

日本はアジア大陸東北部の美しい島国です、日本は桜を国花としているため“桜の国”とも呼ばれています。20世紀70年代以来、日本は高度経済成長を通じ、巨大な経済奇跡を作りだしました。当時の西洋人は日本を“アツアのホウオウ（鳳凰）”と言っています。日本の国土面積は世界陸地面積の0.27%たらずでありながら、2000年国内生産総額は40042億ドルに達し、名実共に世界第二経済強国になりました。けれどもこの期間中、70年代以後の高速発展、不動産と株の拡張、金融融資の膨脹などはバブル経済の崩壊を引き起こし、その後、日本の経済は周期的な衰退の傾向が現われ始めました。一時は連続して5年間マイナスの増加が浮びました、しかし日本政府は経済を救う一連の産業政策と調整措置を講じ、現在日本経済はまた生き返る兆しを見せています。

日本は中国の一衣帯水の隣国です。遠い中国古代三国時期より日本の国王は中国に使者を派遣するようになりました。そのあと中国の文化は絶間なく日本に伝わり、中国の儒学と仏学も絶えず日本に根をおろしました。中国の農業技術と文字が日本に伝ったことは日本の経済文化の発展を大いに促進する結果となりました。千年に近い歴史の中で日本には“漢化風”の趨勢があり、日本の文化と中国の文化ははずれない縁で結ばれています。日本は明治維新以後から軍国主義の道を歩み、日本政府はアジアと太平洋地区を侵略する大陸政策を取り決めました、この大陸政策を実施する順序は“もし世界を併どんするなら、まず中国を併どんしなければならぬ。中国を併どんするなら、まず満洲を併どんしなければならぬ”というものでした。19世紀末期から1937年に全面的な侵華戦争を起こすまで日本は中国を侵略する一連の行動を画策しました。第2次世界大戦以後、アメリカの操りにより日本は中国を敵視する政策を講じました。そして台湾の蒋介石集団と互いに結託して中国を押しつける、中国を反対する一連の行動を行ったのです。

1972年、中国は国際連合で合法議席を取りもどし日本の新政府は中国に対して友好的態度を取りました、そうしてようやく日中国交正常化が実現されました。日本の田中首相はその年の9月25日に中国を訪問しました、日中両国は《連合声明》を発表してそれまでの両国関係の不正状態に終止符